

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

十勝岳では、7月21日10時頃から62-2火口付近のごく浅い所を震源とする振幅の小さな火山性地震が増加しています。

十勝岳では、2021年頃から62-2火口の熱活動が活発な状態が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

○活動概況（図1～5）

21日10時頃から、62-2火口付近のごく浅い所を震源とする振幅の小さな火山性地震が増加し始め、10時33分頃には62-2火口方向が下がるようなわずかな傾斜変動を観測しました。

火山性地震は12時以降さらに増加して、15時までの地震回数は合計87回となっています。火山性微動は観測されていません。

監視カメラによる観測では、地震が増加し始めた頃は山頂部が雲に覆われていましたが、12時以降に確認したところでは、62-2火口等の噴煙・噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。

○活動評価

十勝岳では、2021年頃から62-2火口で活発な噴煙活動が続いており、火口内の高温化や微弱な発光現象、一時的な地震増加、火山性微動発生や地震増加と同期した傾斜変動が時々観測されています。2023年7月4日には、継続時間約45分間の振幅の小さな火山性微動が発生し、火山性地震が一時的に増加しました。

このように、十勝岳の火山活動は活発な状態が続いていますので、今後の推移に注意する必要があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

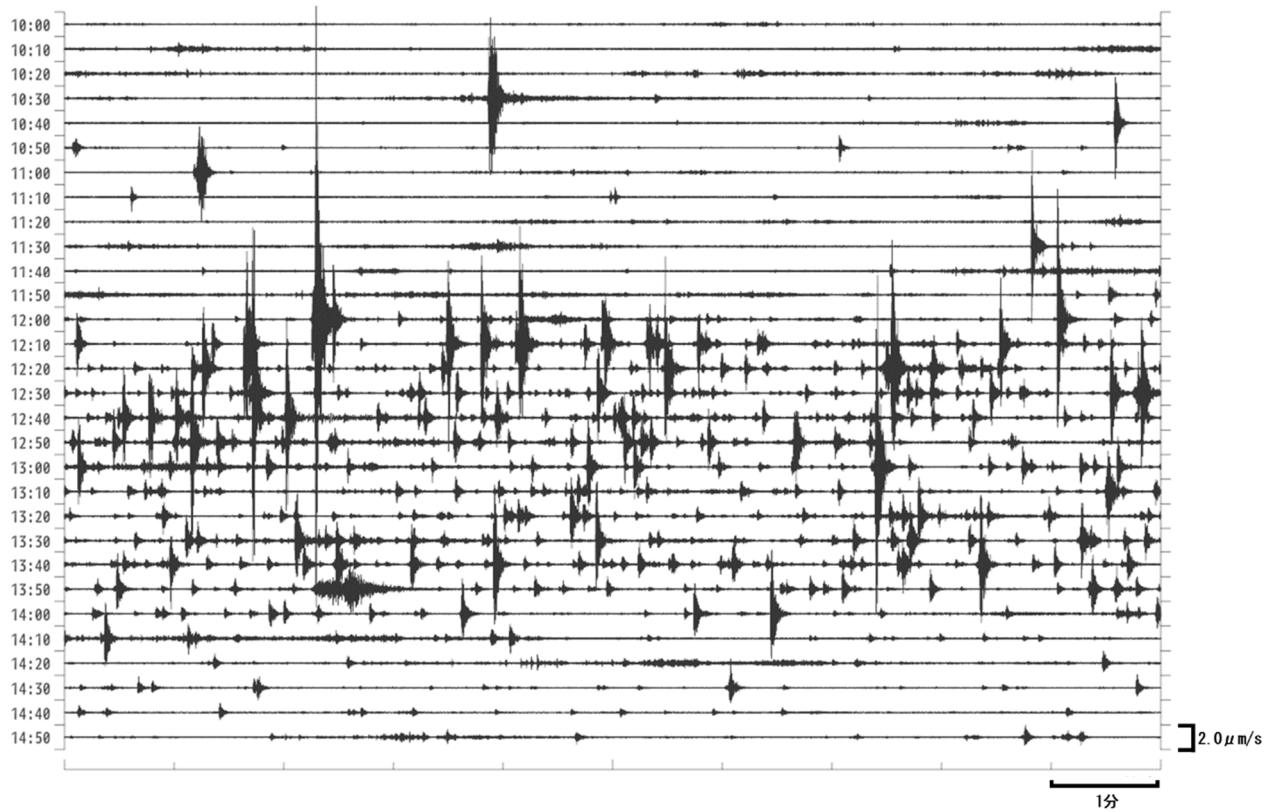


図1 十勝岳 避難小屋東観測点の上下速度波形（7月21日10時～15時）

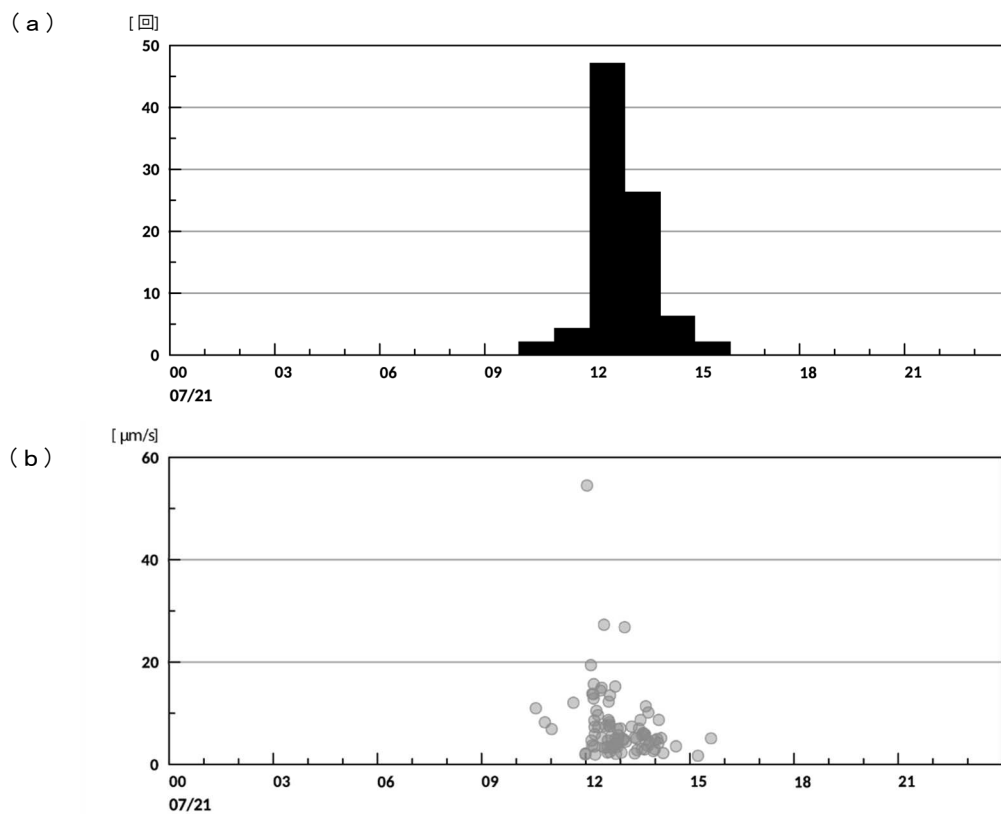
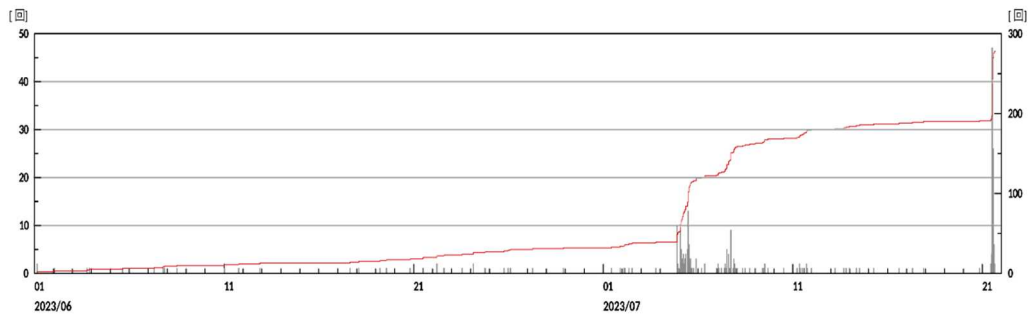


図2 十勝岳 火山性地震の発生状況（7月21日00時～16時）

(a) 時別地震回数 (b) 避難小屋東観測点上下成分速度の最大振幅

火山性地震（B型）の特別回数（左軸）及び積算回数（右軸）：避難小屋東で $0.1\mu\text{m}$ 以上、S-P時間2秒以内



火山性地震の最大振幅（左軸）及びその積算（右軸）：避難小屋東観測点上下成分速度振幅

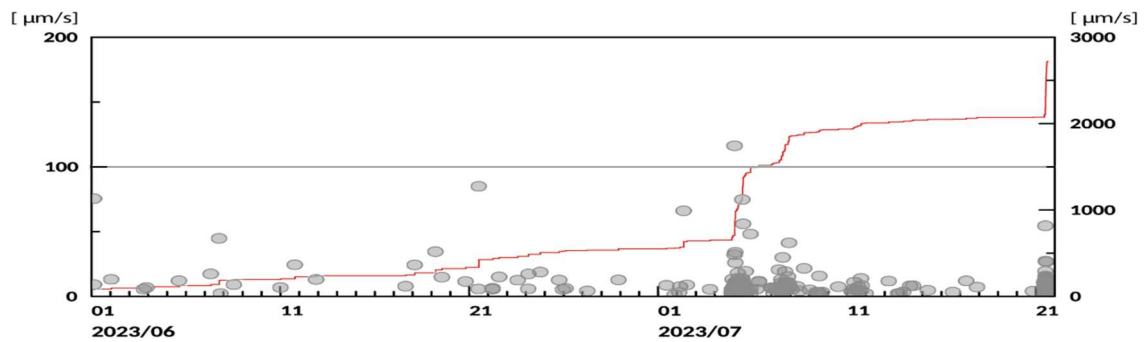


図3 十勝岳 火山性地震の発生状況（2023年6月1日～7月21日15時）

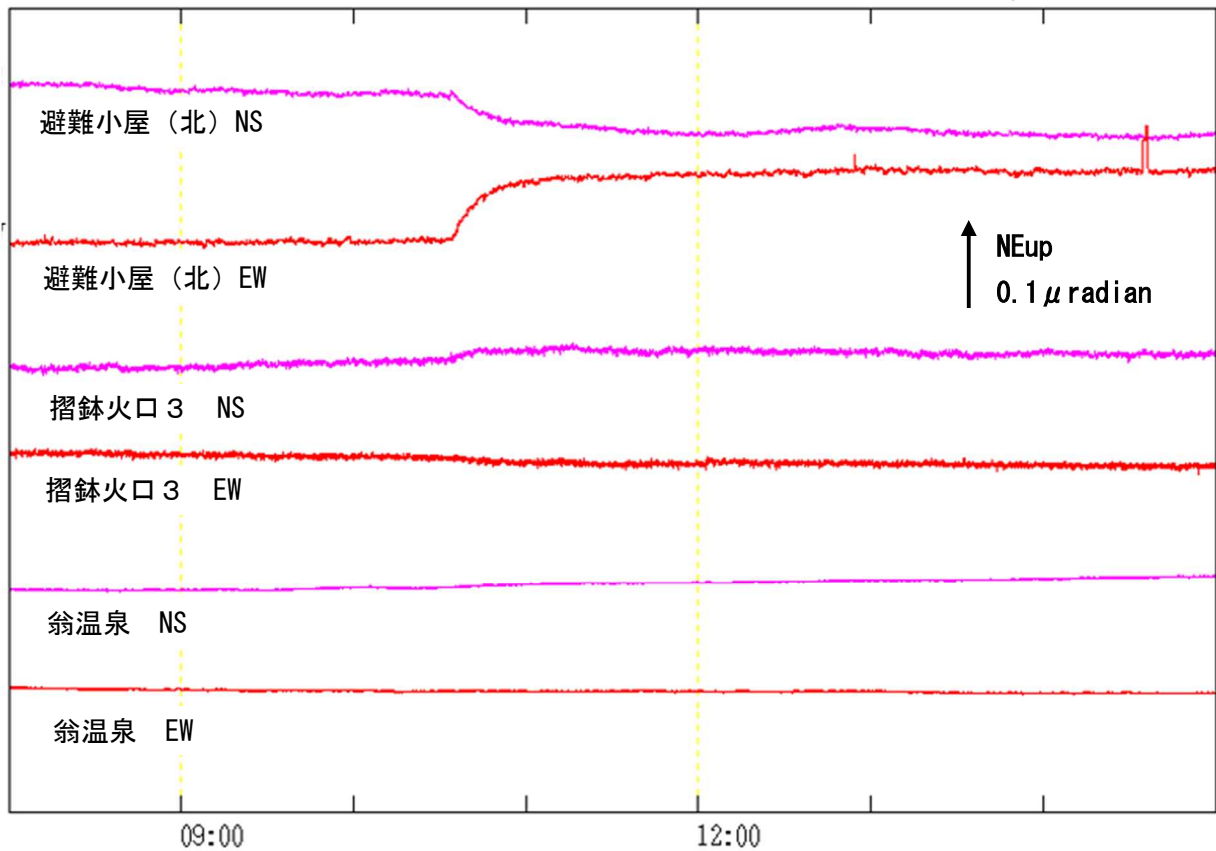
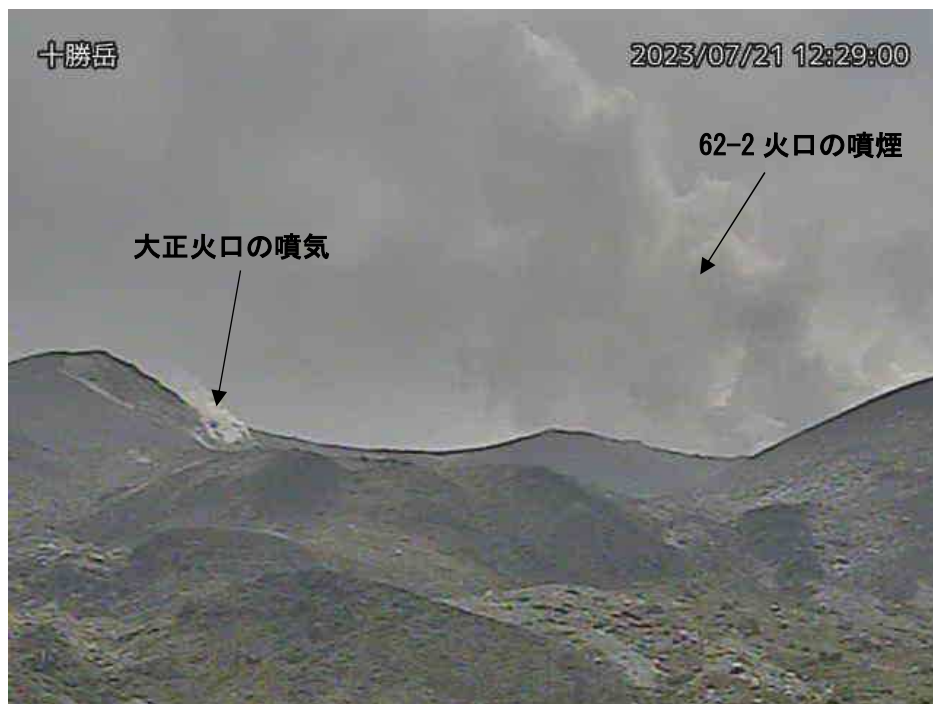


図4 十勝岳 7月21日10時33分頃に観測された傾斜変動（7月21日08時～15時）

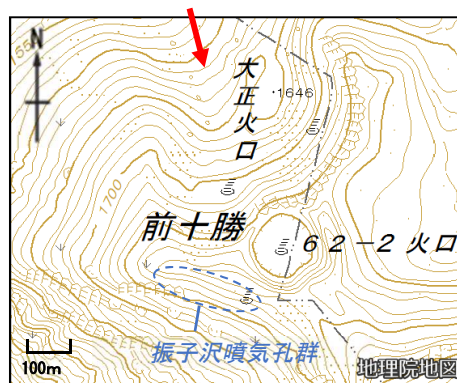
(a) 避難小屋南東カメラ：火口から約1 km



(b) 白金模範牧場監視カメラ：火口から約6 km



火口周辺図



→：監視カメラの撮影方向

図5 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況（7月21日12時29分頃）

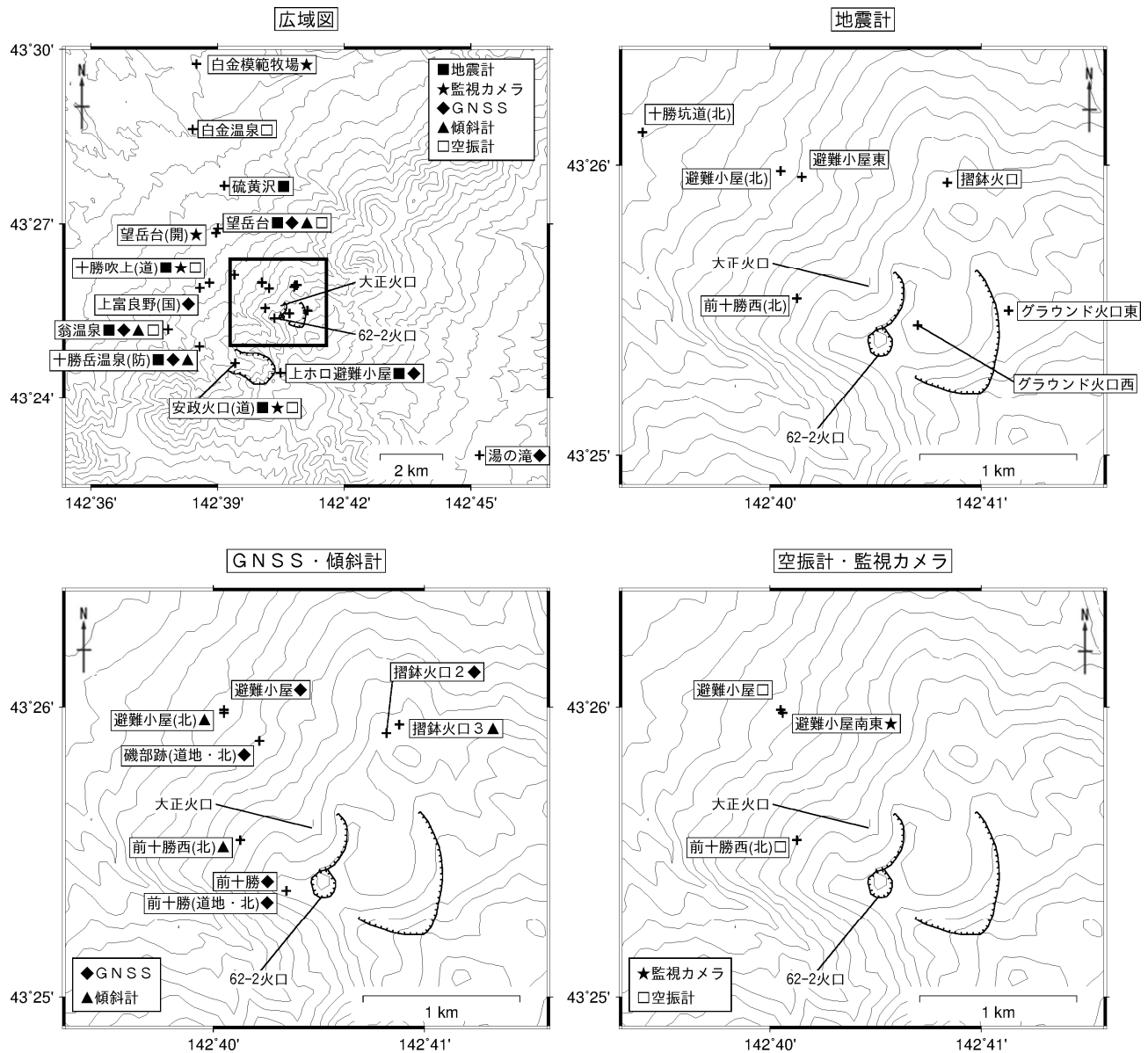


図6 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(開) : 国土交通省北海道開発局

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道) : 北海道

(道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所